



# 水門安衛門の碑

(すいもんやすえもんのひ)



泉永寺近くの水門から流れ出る用水は、西の保免に向かって流れていきますが、途中で北に向かって分かれていく流れがあります。その水路は、双葉小学校の運動場（南門）に向かってまっすぐ伸びています。その分かれるところに、水門の碑があります。



この碑には、次のように記されています。



水門安衛門  
七日に一度一昼夜ずつ水をもらう  
土居田藪中貧田所  
死んでも末期の水がない

この土居田に流れ込んでいる小川を、「南川」あるいは「七日水（なぬかみず）」と言っていたそうです。それは、七日に一度だけ土居田に向けて水門が開いたからだそうです。



今でも、双葉小学校に向かう水路に水を流すときには、この写真のようにワイヤーを使って鉄板を起し、水をせき止めているようです。

昔は、田植えの時期になると、今の双葉小学校のグラウンド辺りは、一夜にして一面が湖のようになったということです。そこに水をためておき、ポンプでくみ上げて用水路に流していました。

今は、道路を広げるために用水路にふたをしているところが増え、昔の水の流れはあまり分からなくなっています。しかし、昔の人は、米を作るために必要な水を工面するのに様々な苦勞をしていたことが分かります。

#### 参考文献

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）